



平成 28 年度 第 21 回「音の匠」

プロフィール

ほんだ ゆたか
本田 泰氏



略歴

- | | |
|---------|--|
| 昭和 7 年 | 荒川区日暮里にて将隆の次男として生まれる |
| 昭和 31 年 | 株式会社日音理科器械製作所へ入社 |
| 昭和 41 年 | 専務取締役役に就任 |
| 平成 元年 | 社長就任 |
| 平成 13 年 | 本田宏社長就任に伴い相談役となる。 |
| 平成 15 年 | 長年の医療用機械器具製造販売業の発展に尽力し、その功績が認められ、黄綬褒章を受章 |

現在も引き続き第一線で、音叉の最終調音と後進の指導を行っている。

◇ 業績概要

・輸入に頼ってきた医学用音叉の国産化に成功

それまでは音叉と言えばドイツに代表される輸入モノしかない時代に、鉄に特定の温度で焼き入れをすることによる国産化に成功した。特に材料においてもS45Cの炭素鋼が最も適切であることを突き止めるなど輸入モノと対抗できる国産音叉の製作技術を生み出した。

・原器音叉の製作と世界最高の高精度化に成功

良質な音叉を量産するには調製用の原器が必要であることは言うまでもない。恒温(昔は15度C、現在は20度C)での $\pm 0.05\text{Hz}$ という超精密音叉の試作に成功し、これを原器に、量産でも $\pm 0.1\text{Hz}$ という高精度の生産に成功している。このレベルは「ニチオン」のブランドに恥じない精密音叉として世界中から信頼されている。

・現在も音叉の多用途開発に自ら挑戦

音叉と言えば「音楽用途」と考えがちである。最大市場は「医療用途」と言われているが飽くなき「用途開発」に現在も自ら携わっている。最近では「ヒーリング用途」、「アクセサリ用途」、「マッサージ用途」等広範な商品化に取り組んでいる。

・音叉研究への情熱と実践へのたゆまない努力

今日においても、最終工程での「調音・調整」は自らが携わることと、後進への指導を怠らず、音叉の研究に於いては「日本音叉研究所・所長」として現在もその情熱は衰えを知らない。

・黄綬褒章授与される

平成15年度にこれまでの業績が評価され「黄綬褒章」を授与された。

◇ 主なTVなどへ出演

- ・2012年8月17日<仕事師の普段力> : BS・FUJI
- ・2015年12月17日<和風総本家> : TV・東京



ステンレス銅音叉 440Hz